

# 釣塔大学新聞

## 釣り堀で新種の魚発見

つくばキャンパスの釣り堀で新種の魚が釣り上げられていた。魚はハマチやシーラカンス、ピラルクなどによく似ており、イマキタと名付けられた。

釣り堀で外来魚の一斉駆除と称した釣り大会を行っていた最中、ハマチに似た謎の魚が釣りあげられた。

魚は研究機関の調査により新種であることが判明した。この魚は発見者の名前からイマキタ(学名: tsukida isuyou)と名付けられた。詳しい生態は現在調査中であるが、日本の固有種と、外来種の交配種ではないかといわれている。

仏壇・墓石  
**椿鎮堂**

最近は一週間に一回交尾を行うなど、通常では考えられない速さで繁殖し、釣り堀ではイマキタが入れ食い状態となっている。

いずれにせよ生態系を破壊しているのは変わりないので、駆除活動が行われている。

イマキタは筋肉が強靭なため移植に使用することを目指して医学部で研究開発

がすすめられている。実用化は二〇一五年夏ごろになると思われる。

なお、食堂では今週末に新メニュー「イマキタの刺身弁当」の販売が開始されるようだ。



イマキタを釣り上げた正栄記者

### サークル棟で火災

タコ足配線が原因か

十四日夕方、サークル棟の五階で小規模な火災が発生した。ファイアウォールが張り巡らされていたため、被害はパソコン一台の焼失にとどまった。原因は本格フィッシング研究部のすべてのパソコンの電源を二つのコンセントからとっていたことが原因と思われる。

関東地方には一か月以上継続して乾燥注意報が出ているので、火の取り扱いには注意が必要だ

### 露草留紺流

フィッシング研究学科の鈴木教授が昨年12月に発表した論文「人類至高の縦読」がイギリスの『Fishing-Mechanism』二月号に掲載されることが分かった。通称F. M. のこの雑誌は、フィッシング論に関する論文を掲載する世界的に有名な雑誌である。

釣塔大学の教授の論文がF. M. に載るのは二年振りの快挙である。学長のアルフレッド・ガッチャピン氏は「とても素晴らしいことです。私の若いころには遠く及びませんが

ね。はっはっは」と話した。この勢いで生徒も教授も世界にはばたいてほしいものだ。

### 今月の俳句

特選 星岡万里

猫の手も

届かぬ高さ

いわし雲

最優秀作品 同新城

牡丹雪

重み感じて

軋む音

優秀作品 榊宗敬

節分の

鬼もいそがし

まめなるかな

### 広告主募集

90000円～

入賞者には豪華賞品が配られます。

弾丸  
銃砲  
ガバナンス